

# これでも66億円を投じた全国学力の報告書か？

# さいたま市教組新聞

文部科学省は今年1月、昨年4月24日に実施した全国学力・学習状況調査の報告書を全国の学校に配布しました。報告書を作成したのは、文部科学省と国立教育政策研究所です。分析の結果をみると、66億円を投じて強行したこの全国一斉学力テストに対する大きな疑問が改めて浮かび上がってきます。小学校の報告書の内容を見比べてみます。

## 言葉巧みに学校子ども像を押しつける

国立・私立学校は一般的に入学選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答率についてみると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている(ゴチックは分析結果、以下同じ)

入学試験のある私立や国立に進む子が、早くから塾に通っている実態からすると至極当然の結果です。保護者に公立学校不信、国立・私立志向をあり、受験が低年齢化するのではないかと心配です。算数の問題の解き方が分からないときにあきらめずに考えようという姿勢の方が、算数の正答率が高い傾向が見られる

## 「今すぐ実現して欲しい4つの要求」署名

さいたま市教組は、三学期に入ってから、「今すぐ実現して欲しい4つの要求」署名に取り組みました。三月五日までに一五三四筆の署名が集まり、教育長に提出しました。市教組は、三学期の要求書に基づく交渉を一日に行いました。また、「4つの要求」について教育長との懇談を申し入れました。直接、現場教職員の声を伝えたいと思います。

## 1534筆を教育長に提出

学校の教育活動について、ホームページで情報提供を行っている地域の人が自由に授業参観などができる学校公開日を設けている学校が自己点検評価の

のが教育です。子どもはみんな分かるようになりたいのです。子どもを切り捨てる冷たさにはわたしが煮えくりかえります。家で学校の宿題をする児童の方が、正答率が高い傾向が見られる

教師なら誰でも感じていることです。勉強が分かればみんな宿題をやつてきます。少し考えて分かってくると、投げ出し

たことがある児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。人間の内面に踏み込み「理想の子ども像」にはめ込んでいく意図が見え隠れして、とても危険な感じがします。

平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校(A群)の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校(B群)より次の項目の割合が高い傾向が見られる

しかし、よく読んでみると、全体に国や文部科学省、そして財界が望んでいる子ども・学校の在り方を押し出すような書かれ方になっています。読んでいて、とても危険だと感ぜずにはいられません。みんな「おかしい」「変だ」という声をあげることが大切です。

教師は毎日、いわゆる「荒れた学校、荒れたクラス、荒れた子どもたち」をなんとかしようと頑張っています。このような分析の仕方は、学校で奮闘している教職員に対して、非常に無責任なものといえます。

朝日新聞が校長向けに発行している「今月の話題」に、朝日新聞秋田総局記者の記事が載っています。

授業中の私語が少なく落ち着いていると思っいる学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる

自分にはよいところがあ、人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童、ものごとを最後までやりとげて、嬉しかった

秋田県が全国学力テストだった理由は、全国に先駆けて少人数教育に力を入れたことだけでなく、前年の予備調査の問題を使って練習していた学校がある、一ヶ月前から試験と解説をした中学校がある、模擬テストを繰り返した学校がある、似た傾向の市販問題集に取り組んだ学校がある、と報じています。やはり競争の弊害が出ています。テストのための勉強は本末転倒です。

## 新年度、学級びらき学習会

毎年、若い人も、ベテランと呼ばれる人も、4月の始業式は、新しいクラスでの子どもたちとの出会いに、緊張もし楽しみにする場面です。今年はどうなるのか・・・？  
日時：4月4日(金) 18:30開会  
20:45終了  
会場：浦和コミュニティーセンター(浦和パルコ10階) JR浦和駅東口前  
1時間目：わくわく学級びらき  
2時間目：1年間を見通して子ども集団を育てる  
小学校・中学校別分科会で行います。

## 競争ある全国学力